令和6年度　学校自己評価表

鳥取県立倉吉農業高等学校

中長期目標（学校ビジョン）	農業教育をはじめとして、あらゆる教育の場において豊かな感性を育て、基礎基本を大切にして知の修得に努め、自らの可能性を信じて不断の努力を惜しまない生徒の育成を図るとともに、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人の育成を目指します。

今年度の重点目標	
	1　各科の特色を活かした新たな魅力づくり 2　地域に貢献できる専門人材育成 3　生徒の主体的な学びの推進 4　生徒募集・定員の充足 5　学校業務改善に向けての取り組み

年度当初					評価結果（年度当初）		
評価項目		評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	今年度の目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	目標達成のための改善方策
1	各科の特色を活かした新たな魅力づくり	各科の特色作り	・生物科は、農畜産物の生産を主体として、プロジェクト学習にも積極的に取り組んでいる。 ・食品科は従来の農畜産加工品に加え、パンの商品開発の研究を進めている。また、水稲栽培において、スマート農業を取り入れている。 ・環境科は従来のカリキュラムに加え、建築・森林並びに建設DXコースが新設された。	・飼育、栽培を通し、知識・技術を習得し、その成果を地域社会に貢献できる魅力づくりを目指す。 ・食品の製造に関する知識と技術を習得し、安全な食品を製造、流通するための能力や態度を身に付けている。 ・新コースで学びたい生徒も多く入学している。各コースで専門的な学習に取組み、生徒全員が希望の進路に進むことができる。	・産官学連携を図り、地域の課題解決や農業の魅力発信に努める。 ・関係機関や地域との連携を図り、販売実習やインターンシップ等の情報発信を行う。 ・新コース設置により工業科目などの新しい科目も学習するので、教員の人員配置を早急に進めていく。また、中学校にも情報発信をしていく。			
		地域連携・地域との交流及び情報発信	・生物科は青パパイヤのの研究・梨葉の利用について、地域とともに取り組んだ。食品科は、県内外での販売イベントを通して本校の加工品などを紹介できた。環境科は倉吉駅前花壇の整備をはじめ様々な研修会・大会に参加し、情報発信をした。 ・体験入学では112名参加、秋季オープンスクールでは49名の参加があり中学生・保護者に本校の魅力を発信した。	・農業の多面的機能やフードシステムや環境問題等の知識や技術を習得するとともに、地域社会で貢献できる人材を輩出する。 ・体験入学、秋季オープンスクールで昨年度の10%増を目指し、本校の魅力をPRする。	・プロジェクト学習を進める中で、情報発信を行い、その成果を地域に還元する。また、コミュニケーション力が涵養されるような仕掛けをする。			
2	地域に貢献できる専門人材育成	農業経営者の育成と進路意識の定着	・スーパー農林水産業士の認定は4名であった。また、農業系の進学者は四年制大学2名、県内外の農業大学校6名、専門学校1名であった（卒業者の13%）。 ・明確な進路目標を設定し、進路実現に向けて取り組んでいる生徒は少ないく、必要な基礎学力が身についていない生徒も多い。 ・10%弱の生徒は毎月の服装指導後に改善しているが、日常のあいさつができていない生徒もいる。	・鳥取県の農林業を支える人材の育成。また、農業系の進学者は昨年同様目標13%とする。 ・3年生は、全員が進路実現を達成し、1, 2年生は希望進路が明確になり、進路実現に向けて努力しようとしている。 ・鳥取大学農学部進学者1名以上、公立鳥取環境大学進学者1名以上を目指す。また、全体の基礎学力の底上げを図る（GTZのD3層を減少させる）　　・常に服装規定を守り、安定感のある学校生活を送っている。服装改善の保護者文書発送を全生徒の5%にする。常にあいさつできる。	・スーパー農林水産業士育成プログラムに則ったカリキュラムを遂行し、農家での就業体験を通して、就農意欲を醸成する。 ・農業に関係する研修や就業体験など担い手育成に関する研修の場を広報し積極的な参加を促す。 ・進路ガイダンス、進路LHR、高大連携事業等を充実させ、意識の変容を促す。また、朝学習、朝学習テスト、業者テスト等を効果的に活用し、各教科と連携を取りながら教科指導を行う。 ・学校生活のあらゆる場面で挨拶、毎月の服装指導と事後指導を徹底し、縦横の連携を密にし、段階的・組織的指導を行う。また、保護者に対して丁寧な説明を行う。			
		学力向上と資格取得の推進	・アグリマイスター前期認定者は4名、後期は認定者5名でそのうち1名がプラチナである。その他難易度の高いものでは、日本農業技術検定2級1名、測量士補1名、技能検定2級1名、危険物乙4類試験1名であった。 ・普通教科・農業教科の1部で、分割授業やティームティーチング授業を行い、生徒個々の能力を伸ばすためのきめ細やかな教育を行っている。 ・家庭学習時間調査を年2回実施し、生徒の家庭学習状況を把握した。学習時間の少ない生徒に対しては、ルーム担任を中心に指導している。	・FFJ級位検定上級位検定合格者数は25名以上、合格率はそれぞれ、初級60%以上、中級40%以上、上級85%以上。 ・難易度の高い資格取得者が昨年以上。 ・分割授業やティームティーチング授業の実施。さらに全教科でクロームブックを活用した学習の実践。。 ・家庭学習調査を実施し、学習時間1日0時間の生徒を0人。	・FFJ級位検定の意義や学習方法等の説明をとおして生徒のモチベーションを高める努力を続け、主体的に学習させる。 ・測量士補の合格者増に向け、外部指導者の活用や課外活動などを実施する。 ・年に2回、授業評価アンケートを行い、より質の高い授業への改善をはかる。また授業でのクロームブック活用状況についてアンケート調査を行い、活用状況を把握し、積極的な活用を勧める。 ・各教科で課題を積極的に出し、生徒の家庭学習時間を増やし、学力の向上に結びつける。家庭学習調査をグーグルフォームで行い、調査結果を担任がすぐに把握できるようにし、学習時間の少ない生徒には、声掛けをしていく。			
3	生徒の主体的な学びの推進	協同学習の推進と授業改革	・昨年度は協同学習をテーマとした研修会を1回と公開授業を8教科でおこない、協同学習の手法による授業改革が着実に実践されつつある。 ・ICTの全体の研修会を2回、その他ICT関連の研修を該当教員で数回実施した。これによりグーグルアプリを活用できる教員も増え、授業で活用されている。	・全ての教科・科目でICTや協同学習の理論を取入れた分かりやすい授業の実践。 ・積極的なICTの活用、生徒の学習意欲と学力の向上。	・協同学習をテーマとした公開授業を全員が行うために研修会を実施する。 ・全教員がICTを活用した授業を実践するために、ICT研修を学期に1回実施し、指導力の向上をはかる。			
		生徒会活動と部活動の活性化	・生徒会、農業クラブの活動は生徒が企画、運営する活動が増えてきているが、まだ不十分である。 ・昨年度中国大会と同程度の大会に出場した部は文化系、体育系、農業クラブを合わせ6部であった。特に、意見発表会、プロジェクト発表会で優秀な成績を収めた。また、全国大会では家畜審査競技肉用牛の部で優秀賞を収めることできた。	・生徒会、農業クラブの生徒が主体となった活動を通して全校生徒がその意義を認識し、生徒会活動に積極的にさんかできる。 ・中国大会と同程度の大会に出場する部が文化系、体育系、農業クラブを合わせ6部以上となる。農業クラブでは、全国大会入賞を目指す。また、地域に出かけボランティア活動を行う。	・生徒会室を設置することで、生徒会、農業クラブの活動を活性化させ、活発な意見交換の場とする。 ・生徒総会、農業クラブ総会、表彰式、壮行会等を充実させることにより、部活動に対する意識の高揚を図る。また、農業クラブ活動への参加を促し、各種交流事業など実践的な体験に多数参加させる。			
		寮教育の充実	・寮行事（卒寮式・納涼祭・クリスマス会他）を通して、寮生の表情が見れる場面を設定している。 ・県外寮生との交流を深め、他校の寮での生活を見て寮の振り返りに繋げている。 ・自習時間の確保（60分～90分）を図り、学力向上のための時間を確保している。	・年間を通した行事で、明るい表情や一生懸命に役割を果たそうとしている姿や活動をしている。 ・寮生サミットに参加し、各校の寮生との交流や課題を発見し、自主性のある寮生会活動ができる。 ・学習テストやFFJ検定、資格取得など合格率80%になるよう学習課題に取り組んでいる。	・寮行事を計画的（5つ以上）に設定し、寮だより（10通信以上）に様子を掲載し、保護者に寮生活の場面を見ていただく。 ・寮生サミットや全農研ブロック大会での運営に携わり、自主的な交流ができるよう寮生会を中心とした寮運営を行う。 ・学習課題やテストに対して、自己目標を設定し、合格に向け学習時間の確保、事前課題の提示、検定課題を配布し取り組ませる。			
		倉農DXの推進による意識改革	・ICT研修会等によりGoogleアプリ等を活用できる教員が増えつつある。また、ICT活用サイトの各種リンクも利用されている。 ・農業実習でタブレットの利用、ドローンの活用を行いデータ業績やまとめなどに情報機器を使用する。ほかには稲作栽培で無人田植え機、トラクターの実機乗車体験を行い、これからの農業のDX化に向けた学習を行っている。	・DXにより授業における教育効果及び授業以外の業務が効率化する。その結果、生徒の主体的学び学習意欲が向上する。 ・学校CIOアンケートにおいて、日常的（週に半分以上）に　ICTを活用している者が60%以上になる。 ・各農場・圃場内で学習活動におけるデジタル化を図り、タブレット利用や安全に実習ができる環境が整い、農業作業時間の縮減、効率化が出来ている。	・Chromebookを用いた授業が積極的に行われるように、教務部と連携し、授業実践の研修会や研究授業を行う。 ・外部機関の先進的な取り組みのある土木測量関連企業や倉吉人材センター、農業関連団体などに講師をお願いし、デジタル化やDX化の推進について学習機会の充実を図る。			
4	生徒募集・定員の充足	県内外生徒の募集の充実	・新入生について生物科、環境科は定員を満たせなかったが食品科は充足し、合計73名であった。そのうち県外生徒は8名あり、合計16名である。 ・様々な取り組みをHPや各種メディアで発信している。本校の魅力が認知されつつある。 ・各分掌、各クラブによるHPへの掲載を呼びかけている。	・本校志望の受検生が80名超え、充足率が80%以上。うち県外からの受検生が10名以上。 ・特色ある取組をマスコミへ情報提供、地域へ発信することによって、生徒の自己肯定感や達成感が高まる。 ・本校の活動が広く認知されるように、実習や各クラブの様子を担当者やクラブ顧問がHPにアップするよう働きかける。年間50回以上のHP掲載を目標にする。	・中学生体験入学、オープンスクールの内容について、より本校の魅力が伝わる内容になるように工夫する。県外生徒募集に向けた地域みらい留学のオンライン説明会に県外生徒を中心に参加させる。 ・特色ある取組をHPやSNSに投稿する。また、マスコミへ情報提供し地域へ積極的に発信する。 ・教育支援部を中心に、各分掌や各クラブがHPを積極的に更新し、行事の様子など本校の活動を広く発信する。			
5	学校業務改善に向けての取組	長時間勤務の解消	・新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、以前のように時間外増えてきている。 ・週休日振替については徹底できている。	・年間の時間外業務時間が360時間を超えない。 ・職場全体に業務を分担し、チームで仕事をこなす意識が浸透している。 ・週休日振り替えなど事前に申請ができている。	・一人一人が自分の働きぶりを振り返り、業務の優先順位を意識しながら、計画的に業務を進めることで、時間外用業務の削減とともに、多忙感の解消を図る。・業務の可視化を推進し、誰もが他者の働きぶりに関心を持ち、職場で支えあえる環境作りを促進する。 ・週休日振替の取得を継続して徹底する。			

評価基準　A：十分達成［100%］　B：概ね達成［80%程度］　C：変化の兆し［60%程度］　D：まだ不十分［40%程度］　E：目標・方策の見直し［20%程度］